

矢板の元気印



「都会ほど無関心ではない、田舎ほど入りこまない、ほっとよい距離感でおつきあいができる矢板が好き」とおっしゃる薄井政江さんは昭和九年生まれ。週に二日の給食ボランティアで調理を三十年。週三〜四日、毎回一キロ泳ぐことを日課にして二十年。そのほかにもお菓子作り、花づくり、細密画など趣味は多彩。

「知識の豊富な方が多くて、家には味わえない、いろいろな刺激

「外に出て人と関わり、いろいろな摩擦があるのでは？」との質問には、「社会参加しようと思えば避けて通れないことですから、そういう時は自分から謝ることにしています。しこりを長く残さないことが、楽しくやるコツで、それも長く続く理由なのでしょうか」と前向きです。

長く続けるコツは、人との交流を楽しむこと

扇町 薄井政江さん

「お子さんが小学校に入ると、手がつかなくなり、たのをきかけに、社会勉強にと、当時できたば

をいただきました。その生活学校が母体になって、給食ボランティアが作られた時、料理が好きだったので迷わず参加しました。気がついたら三十年経っていました。何をしても、人との交流を楽しむという気持ちでやっていたから長く続いたのか

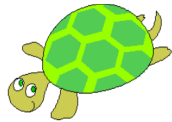
卵を産み落としました。産み終わると、後ろ足で掘った土を卵に掛けて踏み固めました。だれが教えてた訳でもないのに、産み終わったカメを家に連れて帰り「大変だったね」と声をかけてエサをあげました。卵は後日、私が掘り返して持ち帰り、ただいま土をかぶせて経過観察中です。そして八月三十日、二回目の産卵、十個産み落としました。小さなカメ

あの亀が卵を産みました!

「ちようどオリンピックの始まった八月八日、様子の

まるでブルドーザーのように後ろ足を交互に動かし、一時間ほどかけて穴を深く掘ると、今度は体を震わせるようにして一個ずつ、五個の

なにもに生命力のたくましさを見ていると、人間と同じ生き物なんだぞと自己主張されているような感じがしています。



カメの飼い主より

市民力がどんなことだと思えますか?

- 一人一人が協力しあうこと(まとまれば力になる)
- 市民が「まちを盛り上げよう」という気持ちを持つこと。
- 市ができないことを市民に託すこと?
- 個人ではなく皆で力を合わせること。
- できることをできる限り行う。子どもも大人も一緒に行動する。
- 人と人との力の結集を自覚して、行政まかせにしないこと。
- 上からのお仕着せではなく、市民が自ら考え行動すること。

市民力を具体的に感じるのとはどんなことですか?



- ボランティア
- 美化清掃など皆で行うこと。
- 地区の活動が活発
- 川崎城跡公園の活動は一応評価できる、行政が言いだしつべなのはチョット。もう少し市民のやろうとするのを応援する体制があれば。
- 一斉〇〇の日とか徹底してきた。
- 市の行事に協力したこと。
- 夏祭りのイベントのま
- ちおこし。
- やいた花火大会。
- お祭りや市主催のイベントが多くなった
- 個人が率先して道路の草取りをしている方を見て感じる。育成会も子どもは減ったが地域の大人が皆で面倒みている。
- はつきりとしたリーダーがいること。
- 言葉は聞くが具体的に感じられない。

あなたが市民力を発揮するとしたらどんなことができますか?

- 力はないができれば限り地域行事等に協力する。
- 行事に参加する。
- 地域、人への奉仕・奉仕活動(ゴミ拾いなど)
- 子ども会、育成会。
- ボランティア(多数)
- 自分のやってくる仕事をまじめにやって、地域活動に参加する。
- 祭り
- 地域でみんなが盛り上げる。
- 花火のあとの掃除の協力。
- 子どものこと
- 子どものこと
- イベントに参加すること。
- 育成会など地域活動、自分的には精一杯やってみるつもり、今やってみることを継続してゆくこと。
- 青年会議所のメンバーなので、高原山トライアスロンで「矢板」をアピールする。
- 近くの人に声を掛ける、年寄りの一人住まいが増えているのでちよつとしたボランティアは一人からでもできると思う。

検証! 矢板の市民力

「市民力かわら版」が創刊されてから、早いもので1年経ちました。この1年で、果たして市民力という言葉が経ちました。この1年で、果たして市民力という言葉が経ちました。この1年で、果たして市民力という言葉が経ちました。

編集後記

初めの方々の記事は、おもしろい。取材のハルハル、汗をかきながら、おもしろい。取材のハルハル、汗をかきながら、おもしろい。取材のハルハル、汗をかきながら、おもしろい。